動物福祉の概念

ベストプラクティスを実践するために
動物福祉の原則を理解する

動物福祉の原則を理解する

目的

以下の知識と理解を習得する：

- 動物福祉とは何か。および、動物園や水族館の「ケアの義務」とは何か。
- 現在使用されている科学的根拠に基づいた動物福祉の枠組み。
- 飼育下の野生動物の不可欠なニーズとその対応方法。
- 動物福祉に関連した飼育実践。
- 動物福祉の簡単な測定方法。

ねらい

- 動物福祉の概念を考察し、その重要性と飼育員の日常業務への適応について説明できるようになりましょう。
- 動物福祉のニーズを理解し、良好な動物福祉を確保するためにそのニーズを測定できるようになりましょう。
- 基準に満たない飼育が動物福祉に与える影響を理解しましょう。

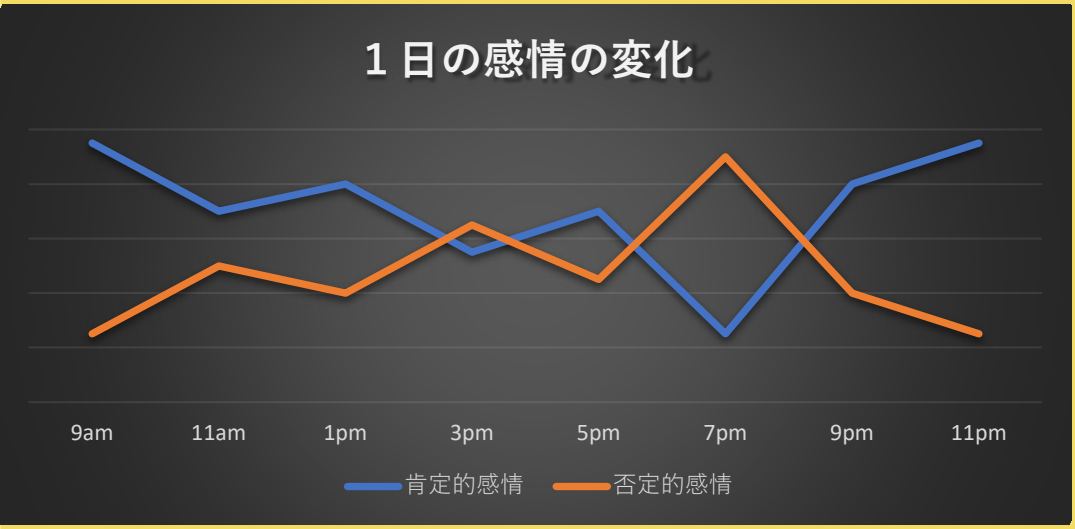
理由

- 動物福祉が動物にとって実際にどのような意味を持つか、また、日常的なケアが動物福祉にどのような影響を与えるか、をより深く理解するため。
- 種の生物学的知識を持つことにより、適切な飼育および管理を実践できるようにするため。
- 種固有の、および各個体のニーズすべてを満たすことは、福祉向上に不可欠であることを理解するため。これには、多様な環境、食事、行動、健康のニーズが含まれます。

動物福祉

動物福祉は、動物が自らのくらす環境と調和している状態といえます。動物が経験する実際の感情および感覚を反映する個体の心理的ウェルビーイングを慮ります。動物福祉という言葉はよく、感情や気分の状態、つまり動物がどのように感じているかを指して使われます。ヒトと同様に、動物は肯定的および否定的な感情を感じることができます。

否定的な感情が最小限に抑えられ、肯定的な感情が助長されると、良好な動物福祉が確保されます。



動物は、喜び、痛み、退屈、満足感など、様々な肯定的および否定的な感情を感じることができます。これらの感情は随時、日々変動し、それはニーズが満たされているかどうかに依存します。ニーズは、その種の生物学的要件と個々の要件に固有のものです。

常に動物に否定的な感情ではなく肯定的な感情が持てる機会を提供することが重要です。

ケアの義務

すべての動物園および水族館は、その施設にくらす動物のケアの義務を有します。各個体のニーズを満たし、身体的および精神的に健康な状態で暮らせるようにすることがケアの義務です。

これは、動物に関わる仕事をするすべての人に、動物の健全な生活を実現し、身体的または心理的な苦痛を防ぐ責任があることを意味します。

飼育者としての役割は、最高の基準でこの義務を遂行、維持し、動物が十分に世話され、健康な生活を送れるようにすることです。

動物の感情

動物には感情や気分があると言えますか？単刀直入な答えは、**「はい」**です。

感性とは、肯定的および否定的感情を感じる動物の能力です。認知とは、様々な状況を経験して知識を習得し、理解するプロセスです。道具を使用するカラスなどの知能の高い鳥から、優れた問題解決能力をもつことが発見されたタコ、痛みを感じるロブスターまで、広範囲の動物が、認知能力と感性の両方を持っています。飼育員は、飼育下の環境で適切な飼育技術により、動物の感情的および認知的なニーズを満たす必要があります。

感情はどこから生じる？

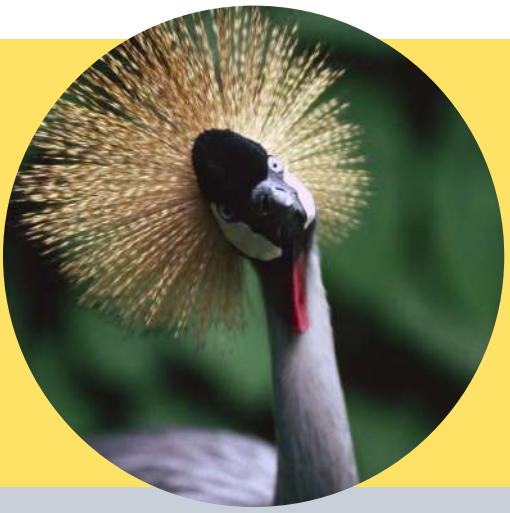
脳は、どのように感じるか、そしてその結果としてどのような行動をとるかを制御する臓器です。感情に対する反応を制御する主要領域の一つが、大脳辺縁系です。ここには、空腹感やのどの渇きなどの本能的な感情だけでなく、怒りなどの気分も制御する視床下部があります。また、記憶や注意などの機能を処理し、ストレス、不安、憂鬱によって活発な状態になる扁桃体があります。さらに、長期記憶を司る海馬があります。

大脳辺縁系は感情処理組織と考えることができ、動物界すべての哺乳類の脳は同じ構造になっています。爬虫類や魚類を含む多くの動物は、ヒトと同様、感情を処理する生物学的構造を持っているのです。

感情には生物学的な目的があります。
特定の行動指針に沿って行動させ、生命を維持する援助をします。感情は、個々の経験と発達に左右されます。多くの場合、快感は生存率を高める活動から生まれ、不快感は生命を脅かす危険性がある活動から生まれます。生存および繁栄のために独自の意図と好みを発達させてきたすべての個体は、肯定的な感情を感じる、生存および繁殖のチャンスをより高める可能性のある行動を発現します。同様に、痛みや恐れのような、生命を脅かす否定的な経験に至る状況を避けます。つまり、動物界すべてにおいて、感情が存在する理由を合理的に説明するのは難しいことではありません。

動物は感性を持つ存在

「感性を持つ」とはどのような意味でしょうか？研究によると、動物は痛み、恐怖、不安などの感情を感じることができることがわかっています。感性を持っているということは、動物がヒトと同じように物事を感じることができるということです。広範囲の動物が感性を持つという理解は、科学的には比較的新しい発見ですが、動物福祉にとって非常に重要なことです。



Q. 飼育下の動物には、どのような感情があると思いますか？また、その理由は何ですか？これらの感情に影響を与えるものは何だと思いますか？

動物の感情と福祉

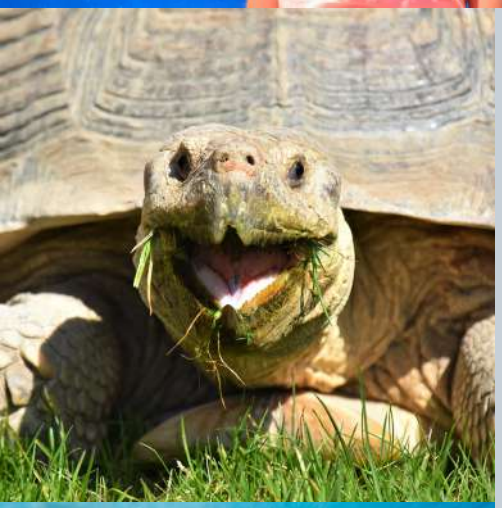
動物福祉を考慮する際には、動物の心理的な状態、すなわちどのように感じているかに注目します。**動物の感情**は、ヒトの感情と同様に、個々の動物に固有のものです。ヒト同様に、否定的、中間的、肯定的なものがあり、身体的状況および活動環境に依存します。

これは、動物が生活全般で経験する様々な状態の絡み合いに左右されるもので、その環境になんとか耐えている動物と、繁栄している動物の間では大きな違いが生まれます。

肯定的状態は、身体的および行動的ニーズが満たされている時に生じます。**動物は肯定的な楽しい経験を求めます。**

中間的状態は、肯定的でも否定的でもない経験です。動物の生活にプラスの影響もマイナスの影響を与えません。

否定的状態は、動物が避けようとする経験、例えば、恐れ、空腹、苦痛など、です。**動物はこれらの嫌な経験を避けようとします。**



これらの動物が何を感じているか分かりますか?

人間のボディランゲージと同じように動物のボディランゲージを判断することは避けてください。異なった意味を持っている場合が多いです。動物は私たちが微笑むのと同様に微笑むわけではないので、笑顔に見えても幸福を意味するとは限りません。飼育する動物のどのような行動や表現が、どんな感情を示しているかを研究すると、その動物がよりよく理解できるようになります。

動物の感情を読む

欲求不満 - 狭い板の上でお互いに道を譲れないクマたちが、欲求不満を感じ、攻撃的になっています。

恐れ-若いウマが、群れの支配的なウマによって追いかけられ、耳を後ろに倒して恐れの感情を示しています。

写真：Rosie Badger

好奇心 - ライオンが、においを嗅ぎ出す口蓋の特別な器官を使うためのフレーメン反応を示しています。

脅威 - ヘビが脅威を感じ、その脅威を寄せ付けないように威嚇してS字型に身体を曲げています。

安心 - 霊長類の群れは、安心している時によくお互いにグルーミングをします。闘争後に落ち着きを取り戻すために、よりグルーミングをすることがあります。

興奮 - 鳥類には、とさかと羽で感情を伝達する種がいます。持ち上がったとさかは興奮を示しており、完全かつ継続的に上がっている場合、怒りや恐れによる過度な興奮を示します。

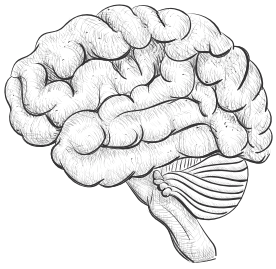
動物の感情を理解する

感情とは？動物の感情は、特定の刺激に対する即時の反応とされています。例えば、食べ物が手に入りそうな時の興奮や近くに捕食者を検知した時の恐怖などです。

気分とは？動物の気分は数時間、数日間、数週間など長期にわたる場合がある感情的な状態とされています。例えば、その種に適した環境が提供されていることによる満足感または安心感などです。

種によって感情表現は異なっており、ゾウがヒトと同じ刺激に同じ反応をすると想定することはできませんが、ヒトと同様に、すべての種は苦痛と感情の両方を感じる能力を持っていることを知っておきましょう。動物の感じる能力を尊重することは、どのようにその行動を解釈し、動物と交流し、どんな行動を促すべきかを考える出発点になります。

多くの種は感情知能を持っていると考えられています。例えば、仲間や家族を失った時に、悲しみを表すと思われる種がいます。魚は恐れ、興奮、怒り、喜び、不安を表す感情的な行動をしていることが確認されています。魚類の脳は哺乳類の感情にともなう合成物と同じものを生成します。



鳥類およびその他の数種は、「心の理論」を持つことが示されており、これは他の個体の心の状態、知識などを類推できることを意味します。多くの調査で、ある種の霊長類および鳥類は、自分の食物を盗むかもしれない同種の個体がいる場合、異なった行動を示しています。行動の動因だけではなく、動物が感情知能を持っていることを理解することは、動物の感情的な反応を理解するのに役立ちます。飼育環境や方法はその反応に焦点を当てて調整されるべきです。

動物は単純に信号に応じて動くロボットとは違います。感情的および行動学的動因から判断して、動物が心理的に必要としているものを与え、それに応じて飼育方法を変更する必要があります。

考えてみましょう　-　動物が体重過少だった場合、それは栄養的ニーズが満たされていないからですか？それとも、その環境もしくは群れの中で、恐れて食べ物を得ることができないからですか？

動物の知能

動物の道具の使用と知能の間にはつながりがあると提唱されています。道具の使用は、哺乳類から鳥類、昆虫類に至るまで、多くの分類群で見られますが、複雑さは様々です。特に霊長類やヒトに関しては、道具の使用と知能の間に進化的な関連性があると提唱されています。

Q.　動物はどのくらいの知能を持っていると思いますか？動物が道具を使用している、または、心の理論を持っているのを目撃したことはありますか？自分が目撃したことを説明してください。

動物福祉モデル

「5つの自由」の動物福祉モデルは、飼育下にある動物福祉の5つの基本原則で、特に家畜のために確立されました。5つの自由は動物が経験する可能性がある福祉を損なう状態（感情）を最小限に抑えることに重点を置いています。

5つの自由とは、

1. **飢えと渇きからの自由**ーきれいな水、健康および活動を維持するのに十分な食物が常に与えられている。
2. **不快からの自由**ー避難場所や快適な休息場所を含む、適切な環境が整えられている。
3. **痛み・傷害・病気からの自由**ー病気や傷害がないように管理されている。また、それが生じた場合、迅速な診療と治療がなされる。
4. **正常な行動を表現する自由**ー十分な空間、適切な設備（飼育場内設置物など）が与えられ、また群れをなす種の場合、群れで飼育されている。
5. **恐怖や抑圧からの自由**ー精神的苦痛を生じない環境と対応が確保されている。

このモデルは、負の経験を最小限に抑えるのに役立ちますが、正の経験を促進するものではありません。そのため、現在では一般的に、ウェルビーイングを向上させるために、劣悪な環境を最小限にするだけではなく、動物を感情的に良好な状態にすることに重点が置かれるようになっています。**「Five Domains of Potential Welfare Compromise（5つの領域）」**は、その結果として発展したモデルの一つです。

5つの領域モデルは、身体的環境（客観的に実在するもの）がいかに動物の感情に影響を与えるかを表したものです。例えば、何を食べるか、快適であるか、健康であるか、制限されることなく楽しいことができるか、これらすべてが感情に影響を与えます。

このモデルは、動物の生理機能または身体的健康に関連した4つの身体的領域を表しています。それは、**行動、健康、環境、栄養**です。5つ目の領域には、心理的なウェルビーイングを示す「精神状態」（**精神**）があります。

5つ目の領域は動物の経験によって生まれ、4つの身体的領域の影響を受けます。これらはすべて飼育下にある動物に対して皆さんが管理できる要素であり、皆さんのケアが動物の感情にいかに多大に影響するかが分かります。動物のニーズを満たすためには、動物の進化の過程で形成された自然な行動、生態学、およびこの5つの領域を理解する必要があります。

参照：Littlewood and Mellor, 2016

領域1
環境

正 - 快適な温度、寝心地の良い寝床、新鮮な空気。

負 - 過度の高温/低温、限られた空間、負傷の恐れのある/硬い表面、強烈な臭気。

領域2
健康

正 - 負傷がない、良好な体調および身体能力

負 - 急性または慢性の傷害、体調不良、身体的衰弱、身体機能の障害/停止。

領域3
栄養

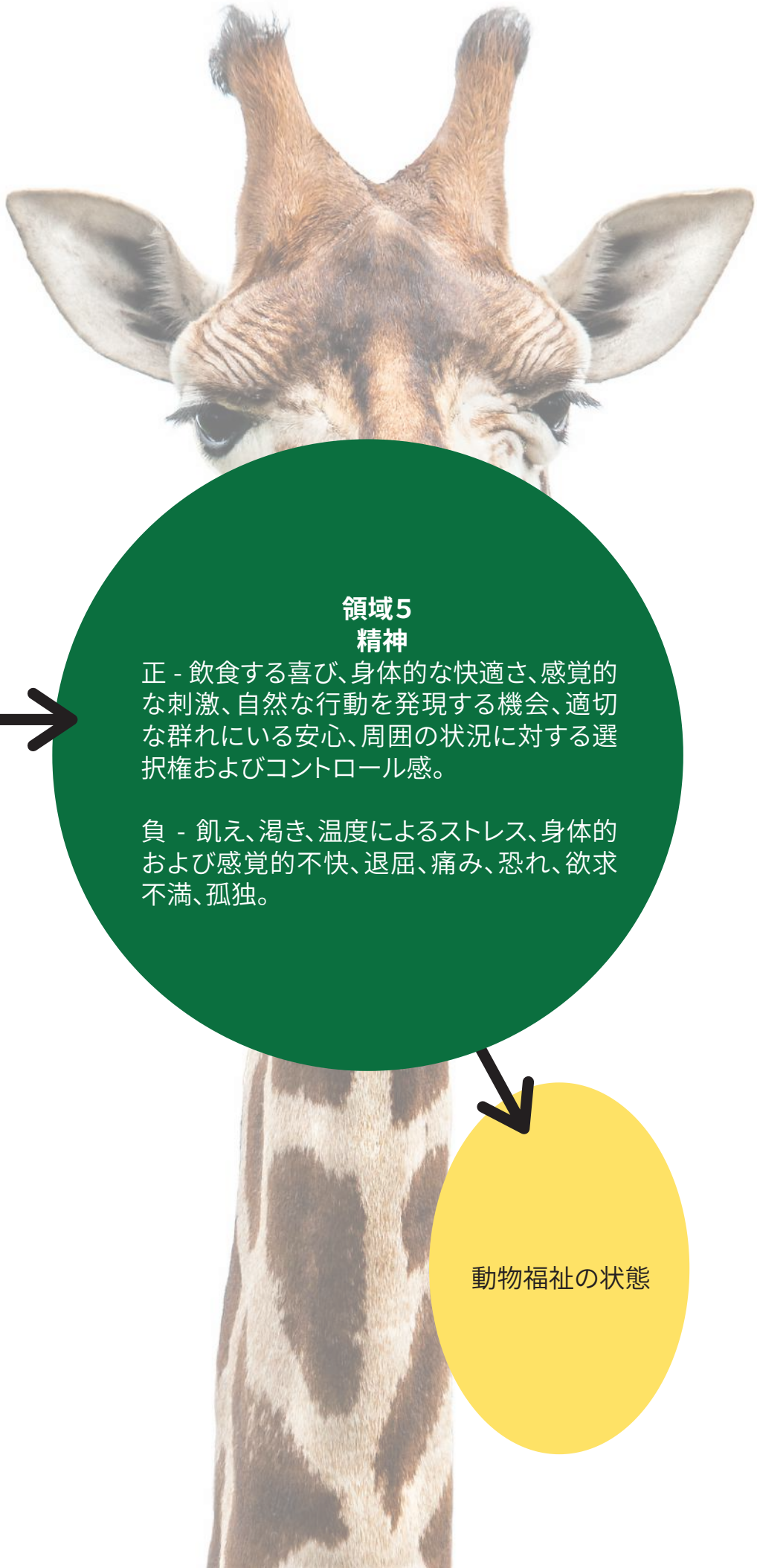
正 - 十分な飲食物、多様な味、におい、食感。適切な栄養。

負 - 限られた飲食物、多様性のない食事、粗悪な食物、不適切な食事の頻度。

領域4
行動

正 - 探索、適切な社会的行動の機会、運動、遊び。

負 - 脅威を感じる状況、行動を促す刺激または適切な社会活動の欠如。



領域5
精神

正 - 飲食する喜び、身体的な快適さ、感覚的な刺激、自然な行動を発現する機会、適切な群れにいる安心、周囲の状況に対する選択権およびコントロール感。

負 - 飢え、渇き、温度によるストレス、身体的および感覚的不快、退屈、痛み、恐れ、欲求不満、孤独。

動物福祉の状態

動物のニーズを満たす

動物福祉モデルを検討する際には第一に、動物のニーズと、それをどのように満たすかを考慮します。**ニーズは、動物の生理的または行動的な欲求です。**

ニーズが満たされると、動物は肯定的な感情状態になります。ニーズは種固有のものであることが多く、進化的、生物学的、個々の経験によって異なります。食料や水などの基本的なニーズと、社会的相互作用や知的刺激などの特有のニーズがあります。生涯の時期によって、ニーズが異なる場合もあります。例えば、ヒトの子供は健全な発達のために遊びが必要です。同じことが動物にも当てはまります。

良好な動物福祉は、動物の生理的および行動的ニーズを満たすことで確保できます。動物は、特定の行動（クマの穴掘りなど）を発現するように動機づけられます。その動機づけられたニーズを満たすあらゆる機会が与えられなければなりません。

皆さんが飼育する動物の5つの行動ニーズを各種別に挙げられますか？これらの行動ニーズは満たされていると思いますか？ニーズを満たせるように、何を変更できますか？

動物の5つの基本的なニーズ

1. **栄養のニーズ** - 適切で楽しめる食料および水の提供。
2. **環境のニーズ** - 快適な生活環境の提供。
3. **行動のニーズ** - 自然な行動が発現できる機会がある快適な身体的および社会的環境の提供。
4. **健康のニーズ** - 適切な予防的および対処的な飼育および獣医ケアの提供。
5. **精神のニーズ** - 適切な刺激となり、主体的な行動を可能にする適切な選択肢とコントロール感の提供。

種によって異なるニーズがあり、種固有のニーズを満たすことは非常に重要です。適切なものを提供できるように、飼育員は担当する動物を知らなければなりません。

ニーズを満たすためには、動物各種の自然生物学的知識を身に付け、**すべての**ライフステージにおける生理的要求を理解することが不可欠です。

適切な環境を確保し、福祉を損なう管理方法を回避するために、動物の自然な行動と個体の好みを把握しましょう。

飼育員の役割は、自然な報酬行動と良好な健康を促進することで、肯定的な心理状態を生み出し、否定的な状態を生み出す行動や体調不良を防ぐことです。

動物福祉の良し悪しは、飼育員が提供するケアにかかっています。

「生存」より「繁栄」をめざす

飼育下でのよい生活とは、動物が一生を通して常によい福祉を経験できる生活と言えます。飼育のベストプラクティスとは、動物がケアによって、単に生存するのではなく、繁栄するようにすることです。すべての動物は、豊かで生きがいのある生活を送る権利があります。そのため飼育施設では、その個体特有の報酬経験を促進する環境を提供しなければなりません。安心や満足感などの肯定的な感情を生み、恐怖、不安、慢性ストレスなどの感情につながる否定的な経験を軽減することは、個体の繁栄に不可欠です。

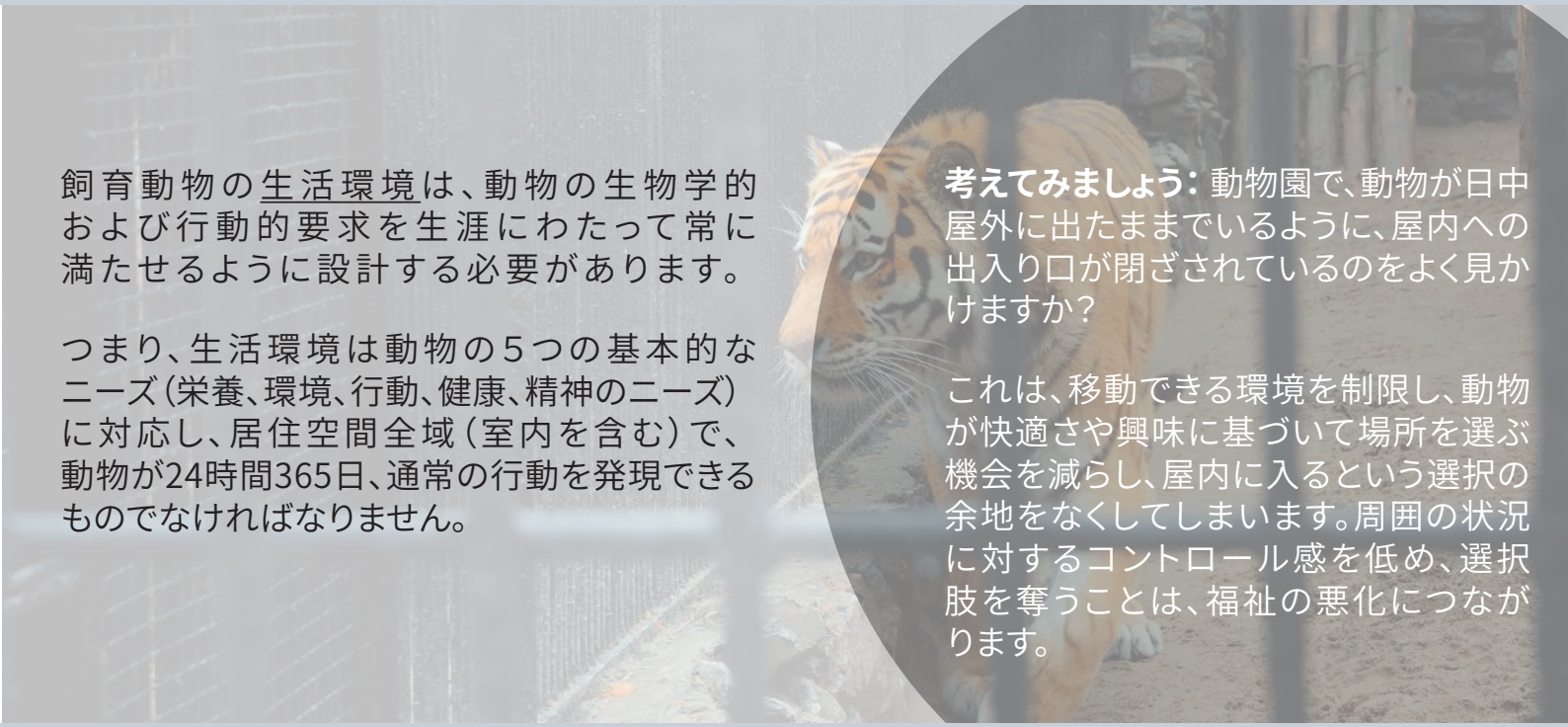
生涯を通して常に肯定的な経験だけできる動物はいません。従って、生活の質は、よい経験と悪い経験の優劣を査定することで定めることができます。

飼育環境では、自然で正常で報酬行動を発現できるような快適な空間と、適切な選択肢および挑戦を提供する必要があります。以下を実践するのが望ましい飼育技術と言えます。

- **快適さ、喜び、好奇心をそそるものを提供する。**
- **良好な福祉を促進する環境の選択の余地を与える。**
- **周囲の状況に対するコントロール感を提供する。**
- **可能な限り、獣医による予防ケア、負傷または疾患の予防対策を施す。**

飼育動物の生活環境は、動物の生物学的および行動的要求を生涯にわたって常に満たせるように設計する必要があります。

つまり、生活環境は動物の５つの基本的なニーズ（栄養、環境、行動、健康、精神のニーズ）に対応し、居住空間全域（室内を含む）で、動物が24時間365日、通常の行動を発現できるものでなければなりません。



考えてみましょう： 動物園で、動物が日中屋外に出たままでいるように、屋内への出入り口が閉ざされているのをよく見かけますか？

これは、移動できる環境を制限し、動物が快適さや興味に基づいて場所を選ぶ機会を減らし、屋内に入るという選択の余地をなくしてしまいます。周囲の状況に対するコントロール感を低め、選択肢を奪うことは、福祉の悪化につながります。

Q.飼育している動物の正の福祉状態を促進するにはどのような方法がありますか？また、負の福祉状態を減少するには？

飼育下で動物のニーズを満たすには？

飼育下で正の福祉状態を促進するには、

1. 自然な正常行動を常に促す。
2. 種固有の生理的および行動的ニーズを満たす。
3. 個々の動物のニーズを満たす。
4. 身体的健康を増進する。
5. 肯定的な精神状態を生む刺激および挑戦を増やす。

飼育下で負の福祉状態を減少するには、

1. 不自然な行動を防止する対策をとる。
2. 不健康状態を改善する。
3. 恐怖やストレスなどの好ましくない経験につながる刺激や挑戦を減らす。
4. 動物福祉の損失を最小限に抑える動物倫理的判断を行う。

中間的状態とは？

肯定的でも否定的でもない（感情）状態です。中間的状態が発生するのはどんな時でしょうか？例えば、毎日同じような食事が出されることを想像してみましょう。面白みがないですが、多少バラエティもあって嫌になるほどではありません。ただ、食事が出されることに対して高揚感はありません。大好物ではないし、別のものを選ぶことができないからです。

つまり、食べる喜び（肯定的感情）はないですが、別に食べてもかまわないので、空腹（否定的感情）もないということになります。これは、良くも悪くもない、中間的感情です。飼育下でこれを感じる動物は多く、環境内に選択肢が少なく、周囲の状況に対するコントロール感が低い場合に特にそうなります。これは、よく起こる状態で、良い経験が定期的に経験され、悪い経験が最小限に抑えられている限り、悪影響があるとは限りません。

福祉向上のために動物のニーズを満たす - 栄養

以下は、動物の5つの基本的なニーズを満たす日常的な実践のための簡単なガイドラインです。ニーズは種に固有のものであり、さらに、個体の好みとニーズは他の個体と違う場合があることを頭に入れておきましょう。栄養、行動、環境、健康についての詳しい情報は、この学習プログラムの各項目を参照してください。

栄養管理、給餌方法、選択の余地

きれいな水および適切な栄養摂取ができる食事の提供は必須です。動物の自然な採食行動の要件と動機を満たす方法で食事を与えましょう。探索、狩りなどの食物獲得行動は、動物の重要な活動パターンです。採食に関するエンリッチメント戦略は、エンリッチメントプログラムで重大な役割を果たします。可能な限り様々な食物を提供して、個々の好みに対応し、また自分で食べるものを選択できるようにしましょう。

写真：Joanna Sokolowski

各動物が野生で食べ物をどのように見つけるか考えましょう。食物獲得のために、どのような身体的活動を行いますか？その行動を飼育下でどのように再現できますか？

水面で食べる魚もいれば、水槽の底で食べる魚（エイなど）もいます。草食哺乳類の多くは、栄養価に乏しい食物を少量ずつ食べ、食べるのに1日の大半を費やしています。鳥類は特定の食物を得るための、例えば、蜜食、果食、肉食に適した、異なったくちばしを持っています。

食品衛生

食べ物の準備と保管は、衛生的な専用エリアで行う必要があります。食品は、湿気や汚染から保護しましょう。

果物や肉などの生鮮食品は、冷蔵庫で保管しましょう。飼育場内の給餌および給水容器は毎日清掃し、食べ残しは定期的に除去しましょう。

Q.飼育している動物にどのように食べ物を与えていますか？その方法は自然な採食行動を促すものですか？

福祉向上のために動物のニーズを満たす - 環境

飼育場の設計と管理

動物の飼育場は、動物の生理的および行動的要件を、一生を通して常に満たすものでなければなりません。自然な正常行動を可能にする十分なスペースとレイアウトを備えている必要があります。社会的行動を必要とする動物は、攻撃的ではない共存できる群れの中で飼育され、飼育場の中が過密状態にならないようにしなければなりません。

非展示エリアや隔離施設内も、他の場所同様の高い基準を満たし、種に適した居住空間である必要があります。

覚えておきましょう： 屋内空間（または「非展示エリア」）は、一般に公開される飼育場と同様の配慮が必要です。動物は、屋外よりも屋内の方が多く時間を費やす場合があり、両方の空間が適切な環境であることは非常に大切です。

寄生虫および害虫の防止

居住空間を適切に清掃することで、動物を寄生虫および害虫から保護することができます。害虫がいないように飼育場の点検を確実にし、害虫を引き寄せる原因となる食べ残しを除去しましょう。体内と体外の寄生虫両方をチェックする様々な方法があり、飼育員が実施できます。より詳しい情報については、獣医に相談しましょう。

環境の調整

飼育場は、種の生理学的ニーズを満たす適切な温度、換気、照明、湿度、騒音レベルに調整できる設計になっている必要があります。

動物の移動

動物を、動物園内もしくは他の施設に移動する必要がある場合があります。輸送は動物にとって非常に大きなストレスになります。捕獲、取り扱い、輸送には常に動物福祉が考慮され、経験豊富なスタッフによってのみ実施される必要があります。動物の輸送および移動は、関連するすべての法令および基準に準拠しなければなりません。施設では、対象となる各動物について、移動許可の取得、記録、健康管理を含んだ移動計画が必要です。輸送手段は安全で、種に適しており、輸送中にストレスを最小限に抑え、快適さを提供するものでなければなりません。

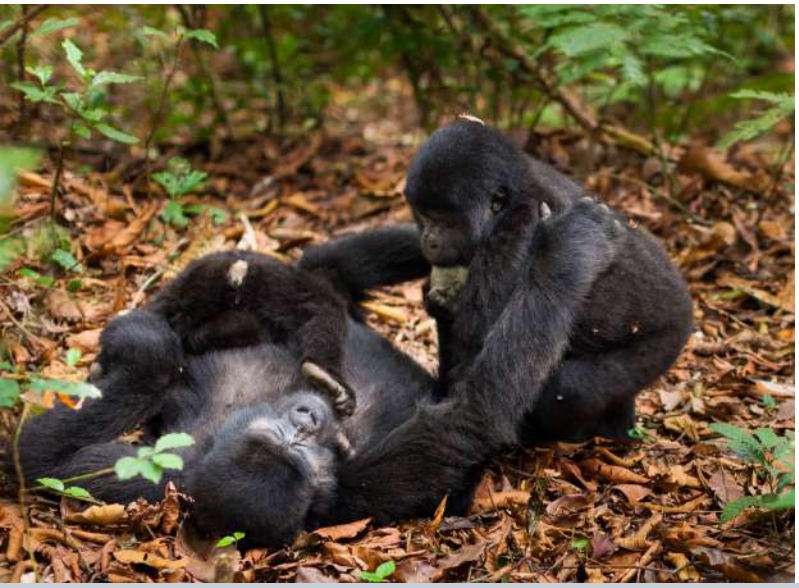
Q. 皆さんの施設では、園内および園外の動物移動をどのように行いますか？どんな規則に従っていますか？

福祉向上のために動物のニーズを満たす - 行動

行動および環境エンリッチメントにより、本来の報酬行動を促し、飼育の質を高めることができます。野生で表現されるのと同じ行動を引き出すこと目指します。社会的、採食、探索、巣作り、休息活動などの行動を、適切な環境を提供することで促します。これにより、動物のニーズを満たし、最適な身体的および精神的ウェルビーイングを生み出します。

各動物の感覚を適切に刺激すること（視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚）が重要で、行動および環境エンリッチメントは様々な形態で提供できます。例えば、食べ物を取り出す努力を必要とする給餌器、様々な床材、異なったにおい、バラエティに富む環境インフラは、特定の種のエンリッチメントとして機能します。

エンリッチメントは、毎日、毎夜の飼育の一環として実践されるべきものです。エンリッチメントのローテーションとアイテムは、自然な行動パターンを促し、異常行動を最小限に抑えるように設計する必要があります。



社会的相互作用は、多くの種にとって非常に重要な行動のニーズであり、種に応じた適切な交流を常に確保しなければなりません。例えば、単独生活は、ほとんどの霊長類の種に適していませんが、多くの爬虫類の種には適しています。個体によって、群れ、ペア、または単独での生活が求められ、さらに時期によって異なる場合があります。また、大きい群れの中にいても、一緒に過ごす同種個体に好みがあります。

Q. 皆さんの施設のすべての種は、適切で共存できる群れ構成で生活していますか？適切であるために、何を変更できますか？

福祉向上のために動物のニーズを満たす - 健康

良好な福祉のための基本的な条件の一つは良好な身体的健康です。懸念があった場合、常に獣医に相談するべきですが、飼育員がまず、種によって異なる動物の不健康状態を認識できなければなりません。飼育下のすべての動物は、自然な発達速度、通常の寿命、および適切な時期に繁殖行動を経験する機会がなければなりません。

動物が良好な身体状態にあることを確認し、必要な場合、できる限り迅速に治療が行われるようにするのは飼育員の責任です。

記録管理

個々の動物を識別し、その身体的および行動的健康に関する記録を管理することは、非常に重要です。種によって異なる健康上の要件と体調不良のサインがあります。個々の動物を知ることで、問題があれば察知できます。通常とは異なる行動が観察された場合、病気であるサインかもしれません。

飼育員は、飼育するすべての個々の動物および群れの記録管理において重要な役割があります。この記録から、個々の動物および群れの効果的な管理、獣医ケア、健康および福祉に関する情報を得ることができます。

高齢期の健康

適切な動物管理の結果、動物がより長く生きるようになり、動物園ではシニアケアがますます一般的になっています。高齢動物は、慢性関節炎や心不全などの疾患を患う可能性が高く、高齢動物が直面する問題は、常に獣医の健康プログラムで対処する必要があります。

ケーススタディ - 健康に影響を与える管理実践

鳥の断翼は、飛行を防ぐために管理目的で実施される一生再生しない切断です。今でも、飼育下の鳥を管理するために一般的に使われています。しかし、飛ぶという自然な行動の発現を妨げることは、動物福祉に悪影響を与えます。動物園では常に慎重な考慮の上で決定し、悪影響を最小限に抑える選択肢を選びましょう。

Q.動物の日常ヘルスチェックを行っていますか?他のスタッフおよび獣医がその結果を見られるように記録していますか?

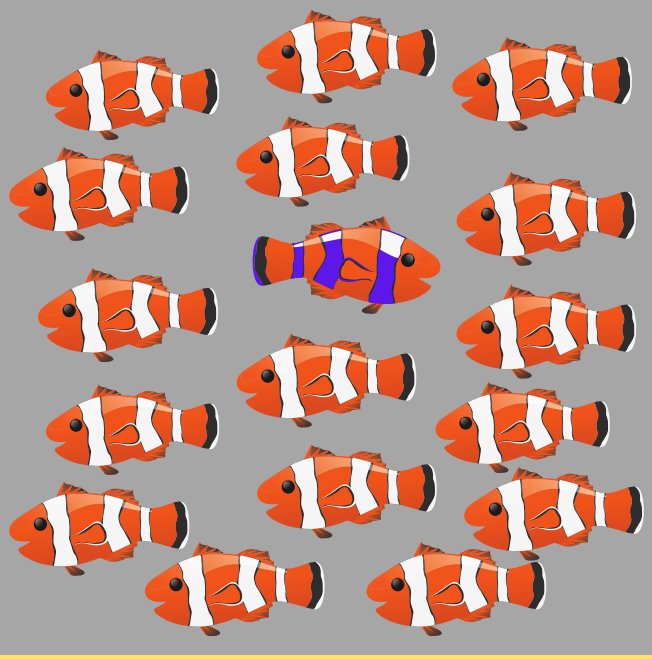
福祉向上のために動物のニーズを満たす - 精神

良好な精神的健康およびウェルビーイングは、個々の動物の生物学的および身体的ニーズ（栄養、環境、行動、健康）に関連しており、これらの異なるニーズがすべて満たされて実現されます。

動物管理を考える際には、個々の動物の個性や好みに加えて、その感性と認知能力も考慮に入れる必要があります。これらは、動物が環境にどう反応するかを左右するため、動物の一生を通じて考慮されるべきです。

すべての動物には個性があります

ヒトと同様、動物には個別のニーズおよび好みがあります。できるだけ満足を与える経験を提供するために、このことは飼育において常に考慮されなければなりません。ある動物にとって楽しいことと嫌なことは、他の個体とっては全く逆かもしれません。群れの中には、健康に問題があったり、おとなしい性格だったり、特別な食事ニーズや好みがある個体がいるかもしれません。飼育実践では、個性を反映し、群れのすべての個体のニーズを満たす必要があります。日常的な簡易観察により個々のニーズを判別し、その観察内容とその動物の生態と個体の好みに関する知識を活用して、個々のニーズを満たしましょう。



自主的に行動する

「エージェンシー」とは、自主的に行動し、自由に選択できる能力を指す言葉です。これにより周囲の状況に対するコントロール感が生まれます。例えば、皆さんが「寒いと感じたので、服を重ね着することにした」場合、これはそうできる選択の余地があり、状況をコントロールできることを意味します。選択肢と選択できる能力があることは、動物にとっても重要であり、それは全般的な精神的健康に寄与します。

しかし、大抵の場合、飼育下の動物ができることのあらゆる状況、例えば、どこにくらすか、いつ食べるか、どの個体と交流するか、などは、ほとんどヒトによってコントロールされています。1種類の食べ物しか与えなかったり、屋内と屋外のどちらにいるかを常に指定したりすることは、選択肢を限定していることになります。動物にどんな選択肢を与えているか、動物がどのように周囲状況を自己決定できるかを常に考慮に入れて日常的な飼育を実践し、精神的健康の向上を目指しましょう。

Q.何匹の動物の飼育を担当していますか？それぞれのニーズはどのように違いますか？また、飼育下でどのようにそれらを満たしますか？

動物の福祉と健康の違い

動物の身体的健康と動物福祉は、混同されやすいものです。動物の身体的健康や寿命は、過去に最も有効な動物福祉の測定方法と考えられてきましたが、正確に実情を反映した測定方法ではありません。動物福祉の５つの領域モデルから分かるように、健康は動物の全体的な福祉状態の領域の一つにすぎません。

良好な身体的健康は、動物福祉にとって重要ですが、良好な身体的健康状態でも、他の身体的ニーズが満たされていない場合、精神的健康が害されます。その結果、総合的な動物福祉が損なわれることになります。同様に、肯定的な精神状態であっても、精神に関係しない健康問題があることもあります。例えば、太りすぎの動物は食べている時は幸せかもしれませんが、身体的に健康ではありません。

動物福祉を調査する際には、その動物の精神的ウェルビーイングに影響を与えるすべてのニーズを考慮することが重要です。すべてが組み合わさって動物福祉状態にどのように影響を及ぼすかを評価し、その観察に従って対処することが、良好な動物福祉を確保する最善の方法です。

動物福祉を測定する

すべての飼育動物の福祉を測定できることは非常に重要です。最良の福祉評価は、行動の有無、食事摂取と排泄、医学的健康、種固有の環境的機会などの評価を含んだ様々な指標を組み合わせたものです。

飼育員は、健康および行動の評価を定期的に実施し、記録する必要があります。

規則的な福祉評価の実施は、動物園が施設全体の運営計画の一部として、動物福祉を真摯に考え、優先事項としていることの証となります。

個体識別（および各個体の福祉評価）と記録の管理は、動物福祉の向上に役立つ模範的な管理実践です。

Q. 定期的な福祉評価を行っていますか？
種ごとに評価はどのように行いますか？

何を測定するべき？

飼育する動物に良好な福祉を確保できているか知りたい場合に、最もよい指標となるものは何でしょうか。動物にどのように感じているかを実際に尋ねることはできないので、精神的健康状態を直接測定することはできません。しかし、動物の精神的健康に影響を与える4つの身体的領域を考慮することはできます。種の生物学的および行動的ニーズを把握していれば、動物の健康に関する身体的領域を評価できます。

以下は、評価に使える指標の一部です。大部分の指標は、変動を明確に把握し、全体的な平均福祉状態を理解するために、長期にわたって実施するのが理想的です。

領域：栄養　**提供される飲食物の質が動物のウェルビーイングにどのような影響を与えるか考えましょう。**

- 水の清浄度および水質 - どのように給水していますか？
- 水分摂取量 - その種/個体の正常値ですか？
- 栄養摂取量 - その種/個体の要件を満たしていますか？
- 食物摂取量と食べ残し量 - その種/個体の正常値ですか？
- 体重変化とボディコンディション - その種/個体の正常値ですか？

領域：環境　**環境（飼育場および周囲の環境）が動物福祉にどのように影響し続けるか考えましょう。**

- 物理的な環境インフラおよび素材によって、動物が負傷するリスクがありませんか？
- 温度、湿度、紫外線、水質などのパラメータは、その種/個体に適していますか？
- 環境内またはその周辺に、ストレスの原因になりうる音が多く発生していませんか？
- 環境の空間と多様性は、常に自然な行動を妨げて/可能にしていますか？

領域：健康　**健康管理がどのように提供されているか、またそれが動物の短期的および長期的な健康にどのような影響を与えるか考えましょう。**

- ふるまい、外観、鳴き声、動きの不具合など、怪我や病気を示すような変化はありませんか？
- 怪我や病気は、直ちに適切に報告および治療されていますか？
- 獣医による予防ケアプログラムはありますか？
- 動物は動物園に到着したときに適切に隔離されていますか？

Q. 動物福祉を評価するには、他にどのような指標を使えますか？各領域で最低一つの指標を考えてみましょう。

領域：行動　　**動物の行動は何を意味し、動物はどのように感じているのか、また、それはどのようなウェルビーイングを示しているのか考えましょう。**

- 動物の行動には重要な意味があり、行動の変化に気づけることが大切です。行動は動物の健康および福祉の状態の明確な指標であり、長い間この目的で効果的に使用されてきました。
- 行動は種や個体によって異なりますが、多くの種で共通の異常行動、例えば、常同行動のペーシング（常同歩行）などが見られます。日常的な行動の変化に注意することで、問題の潜在性に気づくことができます。
- 行動がウェルビーイングおよび福祉の状態が悪いことを示しているのか、良いこと示しているのかを認識できることは重要です。

覚えておきましょう： 福祉を正確に評価するためには、種の自然で正常な行動を理解しておく必要があります。その種が野生にいた場合どのような行動をとるか、その種にとってどの行動が重要であるかを考えましょう。行動によって重要度が違います。

注意すべき異常行動には次のようなものがあります。

- **無気力** –動物が、うつ状態に見えませんか？あまり体を動かそうとしない、もしくはあまり食べようとしないですか？刺激（周囲の環境など）に無反応ではありませんか？
- **常同行動** –野生では見られない、有害になりうる行動を示していますか？これらは反復的で目的や機能がない場合が多いです。例：過度のペーシング。
- **自傷行動** –自分自身を傷つけていませんか？例：毛引き、過度のグルーミング、脚を咬む、その他の自分に向かう傷つける行為。
- **他の個体を害する行動** –他の動物に危害を与えていませんか？例：異常な攻撃行動、育子放棄、過度のグルーミング、その他の極端または不自然な行為。

自然で正常な行動には次のようなものがあります。

- **警戒** - 用心深く、周囲の状況に関心を向けていますか？
- **遊びおよび社会的交流** - 他の個体と積極的かつ適切に交流していますか？
- **食物探索** - 食物獲得のための自然な探索行動を発現する機会はありますか？
- **探索行動** - 周囲の状況に興味を示しており、探索する機会がありますか？
- **休息** - 動物は適切な休息行動と睡眠行動を示していますか？

Q. 飼育している動物の異常行動を認識できますか？
それを減少するためにどのような変更ができますか？

まとめ

動物福祉は、動物が自らのくらす環境と調和している状態といえます。動物が経験する実際の感情および感覚を反映する個体の心理的ウェルビーイングを慮ります。

動物福祉という言葉はよく、感情や気分、つまり動物がどのように感じているかを指して使われます。ヒトと同様に、動物は肯定的および否定的な感情を感じることができます。感情には生物学的な目的があり、動物を特定の行動指針に沿って行動させます。感情は、個々の経験と発達に左右されます。

動物には、恐れ、苦痛、空腹、喜び、安心のような様々な感情を感じる能力があります。動物が生活環境で、なんとか生存しているだけなのか、それとも繁栄しているのかを示すのが、このような（感情および経験）状態の優位性です。

飼育員には、ケアの義務があり、肯定的な経験を最大限に、否定的な経験を最小限にする環境と管理システムを提供しなければなりません。動物福祉の5つの領域モデルは、4つの身体的領域（栄養、健康、環境、行動）が5つ目の領域（精神）にいかに影響を与えるかを表した福祉モデルです。これらの領域とその提供方法に焦点を当てることは、福祉基準を向上する良い出発点となります。これらの領域が動物のウェルビーイングに与える影響を評価できる簡単な指標を理解しておくことも重要です。

覚えておくべき重要なポイント

- 動物福祉は、個々の動物の心理的ウェルビーイングを考慮します。
- 動物は、肯定的および否定的な感情および経験を持ちます。
- 大部分の動物は知能が高く、優れた感情知能を持った種もいます。
- 動物のニーズは、良好な健康と福祉のために欠かせない考慮事項です。
- 適切にニーズを満たすためには、種固有のニーズおよび生理機能を明確に理解する必要があります。
- 動物園にはケアの義務があり、動物のニーズを満たし、生活の質を高め、良好な福祉を確保しなければなりません。
- 同種の中でも個々のニーズや好みは異なります。
- 身体的ニーズである、栄養、環境、行動、健康を満たすことは、肯定的な精神状態を生み、ひいては良好な福祉の確保につながります。
- 動物の身体的ニーズを継続的に評価することは、その動物福祉への影響を測定するために重要です。

簡単な問題

福祉の概念

- **動物福祉とは何を意味しますか？** この項目を読んで、その理解が変わりましたか？
- **感情状態とは何ですか？**
- **肯定的と否定的な福祉状態の違いが分かりますか？**
- **感情に生物学的な目的はありますか？** それを説明できますか？
- **皆さんが飼育している動物は、どのような感情を抱きますか？** 時には皆さんの感情を反映することがありますか？
- **皆さんが飼育している動物は、肯定的な感情と否定的な感情のどちらを多く感じていると思いますか？** なぜそうだと思いますか？
- **その時によって感情は変化すると思いますか？それとも比較的変動がないと思いますか？**
- **動物の感情に影響を与えるものは何ですか？**

福祉のモデル

- **5つの自由とは何ですか？** なぜそれらが制限されているのだと思いますか？
- **動物福祉の5つの領域とは何ですか？**
- **福祉モデルは、飼育者としての皆さんの役割にどのように関連しますか？**
- **飼育実践は、動物福祉にどのような影響を与えますか？** 動物福祉にプラスの影響を与えるために、何を変更できますか？何を現状のままにする必要があり、それはなぜですか？
- **すべての種は同種個体と同じ行動ニーズを持っていますか？** 皆さんの飼育する種の行動のニーズを一つ挙げてください。

福祉の指標

- **不適切な栄養摂取を示す測定可能な指標は何ですか？**
- **良好な環境福祉を示す測定可能な指標は何ですか？**
- **不健康状態を示す測定可能な指標は何ですか？** 動物の不健康状態を示す指標に気づいた場合、どうしますか？
- **自然な正常行動の測定可能な指標は何ですか？**
- **異常行動の反復発現は何を示していますか？** 飼育する動物の異常行動に気がついたら、どのような行動を取る必要がありますか？

アクティビティ

自分が他の人と話すことができない部屋の片隅の制限された環境で暮らしていることを想像してみましょう。感じると思われる感情をすべて挙げてみてください。この環境を改善するには、どのように変更すればよいと思いますか？次の点を考慮に入れましょう。

- 自分や他の人間にとって交流は大切ですか？
- 孤独からどのような否定的感情を抱きますか？
- 閉じ込められて制限されていることから、どのような否定的感情を抱きますか？
- 短期的および長期的にどのような否定的感情が生まれると思いますか？
- 肯定的な感情はありますか？
- この環境を改善するために、どのように変更しますか？柔らかい布団、他の人に会う、電話するなど、自分が楽しめることを考えてみてください。
- チンパンジーはとても社会的な動物です。ここに住んでいれば、同じような気持ちになると思いますか？なぜそう思いますか？

飼育しているサルの群れの中で攻撃行動が増しており、負傷が発生していることに気がつきました。問題の原因を特定できるように、毎日の記録に使える行動観察シートを作成してください。次の点を考慮に入れましょう。

- サルにはどのような種固有のニーズがありますか？樹上生活、社会的、寝場所の確保、採食などの機会を考えてみましょう。
- この種にはどのような正常行動が期待されますか？
- 飼育下のこの種にはどのような異常行動が観察される可能性がありますか？
- 群れの仕組みを正確に理解するには、1日に何回動物を観察する必要がありますか？
- 各個体をどのくらい観察する必要がありますか？
- 動物の行動は時間帯によって異なりますか？
- 個々のニーズが満たされていると思いますか？
- 最近、攻撃行動を増加させる原因になりうる変更はありましたか？
- 行動観察を参照し、攻撃行動を減らすにはどのような変更を加えることができますか？